平成29年度　くまもと・わくわく基金
冠基金　東京エレクトロン九州・マッチングギフト

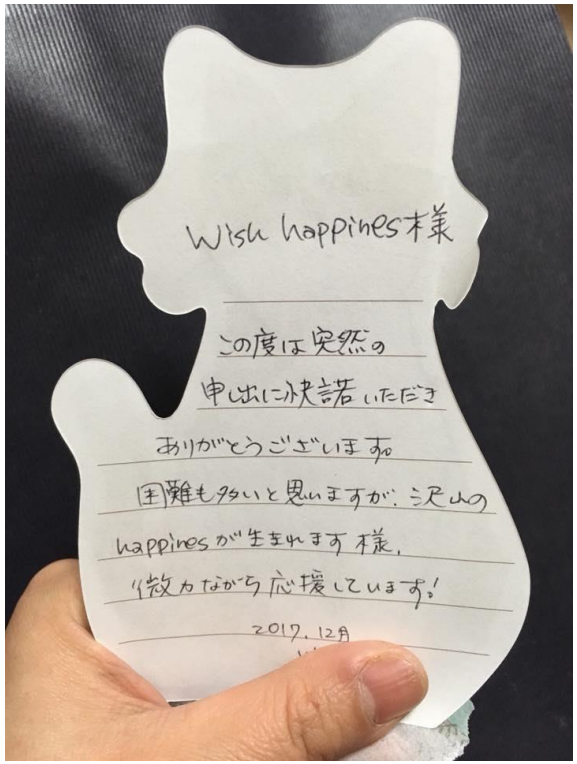
事業報告

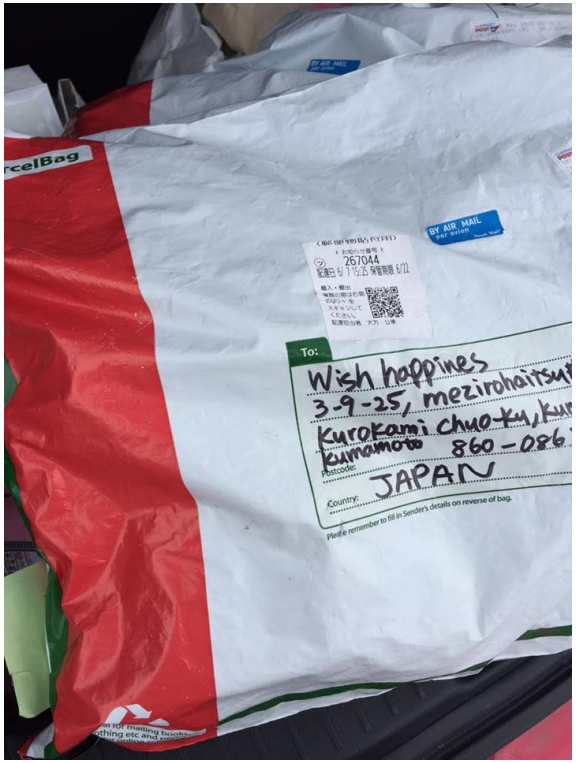
団体名：Wish　happines

助成事業名：子供服無償提供活動

（１）実施内容

- LINE、Twitter、FacebookなどのSNSを使ってサイズアウトした子供服の寄付を募ります。





（１）実施内容

- 寄付で集まった子供服をサイズ・性別ごとに仕分けし、状態を確認して、綺麗に梱包します。

（１）実施内容

- SNSを使って活動を広め、ひとり親世帯や震災後経済的に困っているご家庭を対象にお下がり子供服のご依頼を伺い、交通手段のない方には配達してお届けします。

（２）助成金の活用

- 子ども服支援のフライヤーを2500枚増刷して、子育て支援センターの窓口等計27か所に設置しました。その結果、2017年9月現在依頼件数346件、支援した子供達は延べ716人となりました。
- 助成期間が終了した今も、行政窓口でフライヤーを見たといってご依頼くださる方がいらっしゃいます。
- 大量の子供服を仕分けした状態で保管する倉庫を借りることができ、ご依頼に対してスムーズに作業を行うことができました。

（３）成果、市民の声（参加者やサポートを受けた方）

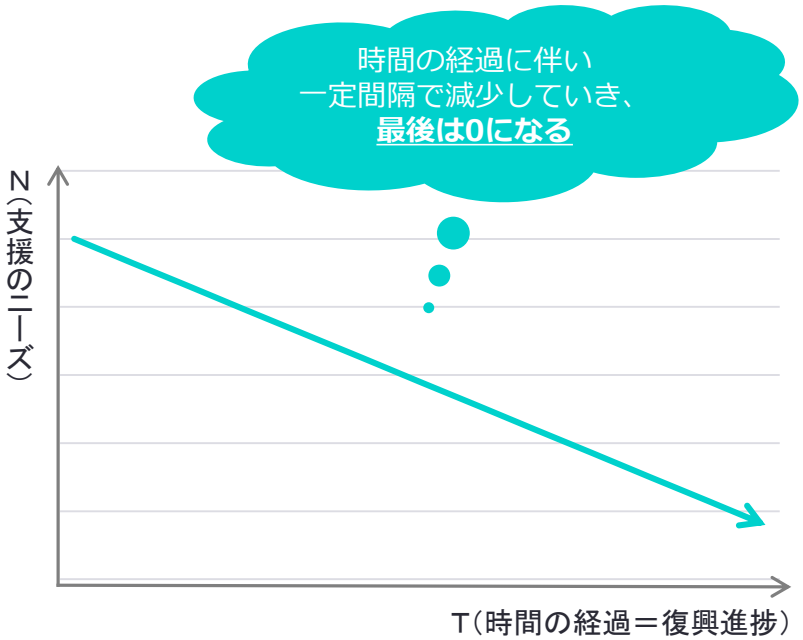
- 市役所でフライヤーを見たというご依頼の方が増えました。
- 「自宅療養中で少ない傷病手当では生活するだけでギリギリなので、子供服をいただけて本当に助かりました。」
- 「沢山の洋服とってもありがたかったです。感謝します。」
- 「中身を拝見しましたが、本当に沢山で、しかも全然使える物ばかりで、新品も沢山あって、本当に感謝感激です。無料でこんなに沢山素敵な物ばかり頂いてよかったんでしょうか…すごく嬉しい反面、申し訳ない気持ちでいっぱいです。本当に素晴らしいサークルですね。沢山の方が助けられてると思います。本当にこんなに沢山素敵なお品をありがとうございました。」

（３）成果、市民の声（参加者やサポートを受けた方）

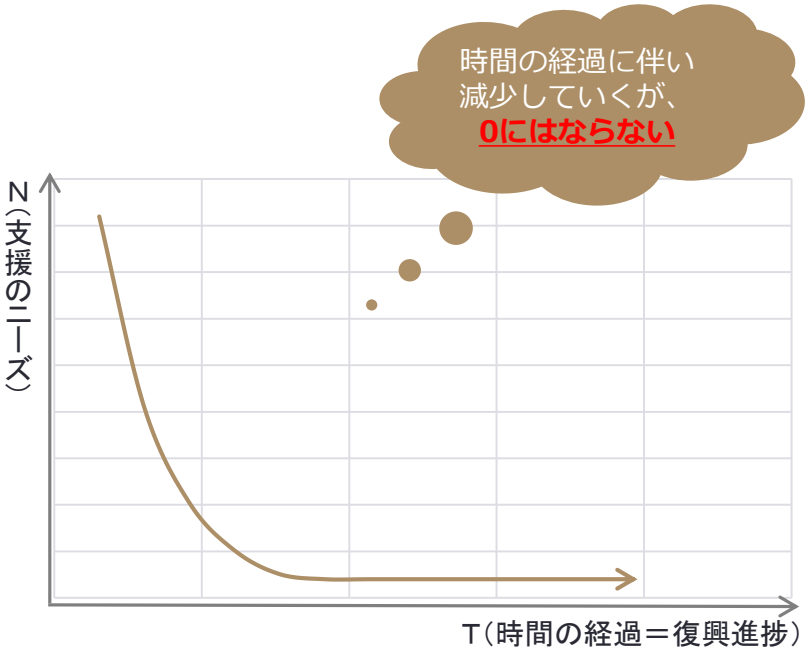
- 「穴の空いたズボンを履かせていたので助かりました。本当にありがとうございます。」
- 「転職先の話が立ち消えになり、引越しする予定もなしになりました。シングルで生活が苦しかったので本当に助かります。」
- 「元夫からの養育費が突然打ち切られ、長男は18歳になるが障害があり働くのが難しいので、いつも助けていただいてありがたいです。」

（４）今後の事業展開

- この事業は熊本地震から始めた活動ですが、依頼者からのアンケートを見ると、ひとり親世帯や多子世帯は以前から苦しい暮らしをしており、地震からの復興と支援を求める社会的ニーズとは必ずしも比例的に減少していくわけではないように感じています。



比例的減少



指数的減少

（４）今後の事業展開

- 今後も可能な限り子供服提供活動を継続していき、それを入り口として、さまざまな課題に悩んでいるお母さん方へ情報提供や、専門家・支援団体への橋渡しを行っていきたいです。
- また、これまでは熊本県内を中心にご依頼を受けてきましたが、同じように服を買ってあげられずに悲しい思いをしているお母さん、子どもたちが全国にいます。遠くの親子にも支援の手を差し伸べることができればいいなと考えています。

（４）今後の事業展開

- この活動はやはり育児中のお母さんにとって心に留まる事業のようで、設立して2年が経ちますが今でも全国から寄付のお申し出があります。各都道府県に私たちと同じような活動をする団体が増えれば、国全体の福祉レベルも向上し、引いてはQOLの向上、子育てのしづらさを改善するという意味で少子化を食い止めるひとつの道筋となるのではないかと考えてます。今後はそういった情報の発信もできたらと思います。